



NPO 法人大雪山自然学校
2018 年度 事業報告書

2018年度 活動報告

活動内容① 環境保全事業

① 自然保護対策業務

東川町大雪山国立公園保護協会の委託事業として、5/15から11/15に旭岳自然保護監視員6名が活動しました。旭岳姿見の池園地における登山道整備や清掃活動、利用マナーの普及活動を行いました。

⇒ 登山道整備は新たに6か所を補修し、過去に実施した60か所の経過観察と再補修を行いました。

⇒ 協力金は2017年1,200,824円。2018年は878,006円をご協力いただきました。

⇒ レンタル長靴は4423足(1,326,900円)の貸出しがありました。

⇒ 排泄に関するマナーと携帯トイレ使用の普及に努め、2018年は491個(245,000円)を登山者に普及することができました。

⇒ 延べ134人のボランティアが旭岳自然保護活動に参加しました。



⇒ 情報発信はブログを153回更新しました。

また、旭岳・天人峡ネイチャーレターを毎週火曜日に20回発行しました。

② 東川町青少年野営場管理業務

1408人(国内1,134名・海外274名)の方々にご利用くださいました。

東川町の委託事業として、6/10から9/30の期間で野営場の受付や清掃などの管理業務を行いました。

⇒「魅せられる野営場」を目指し、草刈や環境整備を工夫し、野草や周辺環境を楽しんでもらえる野営場となりました。

③ 外来種防除活動

北海道上川総合振興局が事務局を務めるセイヨウオオマルハナバチバスターズと連携し、羽衣公園やキトウシ森林公園での防除活動に参加しています。また、旭岳周辺におけるセイヨウの監視活動を行っています。⇒ 外来種問題に関する市民の機運醸成に貢献しています。

④ 野生動物との共存推進事業

5月、6月、7月の3回にわたり、エキノコックスの虫下し入りの餌（ベイト）を作成し、東川町内全域に撒きました。全ての舗装道路に100m毎にベイトを撒いています。来年度も引き続き実施します。



⑤ 湧駒別湿原再生

昨年度に引き続き旭岳温泉街の湧駒別湿原において、重機により踏みつけられた箇所の植生再生作業を、専門家の指導の下実施しています。

今年度はミズバショウ、エゾノリュウキンカ、ホソバノシバナなどの株をおよそ100株移植しました。来年度はその結果を検証し、今後回復のための具体的な方法を検討していきます。



⑥ 地球環境基金（大雪山国立公園におけるボランティア育成と持続可能な受入れの仕組みづくり）

事務局のOJTとボランティアを受け入れる仕組みづくりとボランティア向けの研修会を実施しました。

⇒ 旭岳自然保護監視員業務におけるボランティア活動の質が高まりました。効率的な運営ができるようになりました。

⑦ 事業評価の実施

2017年度よりCSOネットワーク主催による発展的評価研修事業の一環で、大雪山自然学校での事業評価を検討・実践を開始しました。2018年度は複数回の現地調査・関係者ヒアリングを通し、旭岳自然保護監視

員事業にフォーカスした事業評価を行うため、監視員経験者を対象としたアンケート・インタビュー調査等を実施しました。

活動内容② 子供自然体験活動

① イエティくらぶ東川校（主催月例）

述べ40人の子どもたちに8件のプログラムを提供しました。

「北海道の子供が体験すべき自然を訪ねる」をコンセプトに主に東川町、旭川市の小学生を対象とした自然体験プログラムを実施しました。

⇒「道東ワイルドライフキャラバン」では、タンチョウ、オオハクチョウ、エゾシカを観察できました。

② 木育フェスタ in 東川を開催

東京海上日動火災株式会社の助成を受けて、キトウシ森林公園をフィールドに親子向けの「木育」イベントを実施しました。

⇒ ツリーイングやクラフト、薪割りなど多様な木育プログラムを体験してもらうことができました。

③ キトウシこどもの森

内閣府の企業主導型保育事業を活用し、定員9名の保育所キトウシこどもの森「キトキト」を運営。通年型森のようちえんとして活動し、こどもの主体的な学びを軸にした、大人も子どもも育ち合える場を目指しています。

④ キトウシ牧場

昨年12月に道産子を2頭導入。キトウシの森をフィールドに、日々の牧場暮らしを営む。馬の命に寄り添い、馬と関わることで生まれる学習の中から、自らの生きる力の獲得を目指し活動を展開。児童発達支援・放課後等デイサービスの開所、不登校児を受け入れるオルタナティブスクールの開所を目指し、準備を進めた。

- ・シンポジウム「ECFoLの未来」に参加

※ECFoL(エックフォル)とは、Equine Centerd Form of Lifeの頭文字を取った造語。

馬を中心とした暮らしから生まれる、教育、セラピー、マネジメントを含む概念。

<http://ecfol.or.jp/#registration>



- ・東川町 氷祭り参加

エサやり、ブラッシングなど、町民と道産子が触れ合える場を提供できた。



- ・森のようちえん「キトキト」との活動

毎週1回、最大で9名の園児が活動しています。



⑤ オーダーメイド自然体験プログラム

- 神奈川県立横須賀高校の学生 **160** 名の修学旅行を受け入れ、4テーマ（キツネ・水・エゾシカ・森）に分かれて実施しました。

⇒ 3日間かけて個々のテーマを深める専門性の高いプログラムができるようになりました。

- 中国からの親子や子供プログラムの受け入れ。

7 件のプログラムを実施、**102** 人の方々にご参加くださいました。

⇒ キトウシのケビンやホテルに泊まり、夏はキトウシ山登山や森のプレイパーク、キトウシ森林公園に滞在する長期プログラムができるようになりました。



⑥ 身障者を対象とした自然プログラム

- 重度障害のある養護学校児童を対象に、キトウシ森林公園の多様な樹種を枝や葉っぱに触れての学習と枝を使ったスプーンづくりを実施しました。
- カムイ大雪バリアフリーツアーセンターが主催したバリアフルキャンプの野外活動を担当しました。

⑦ 子どもゆめ基金

「おいでよ 森のようちえん体験会」を実施しました。

⇒ **7** 回のプログラムを実施、**98** 人の方々にご参加くださいました。

「自然の中での原体験活動」を実施しました。

⇒ **6** 回のプログラムを実施、**107** 人の方々に自然体験プログラムを提供しました。

活動内容③ 地域に根差した交流推進事業

① 主催ツアー

6件のプログラムを実施。29人の方々にご参加くださいました。

・旭川集合解散でその周辺の特徴ある自然を訪ねるエコツアーです。

6/21 サロベツ湿原、7/13 高原沼、8/2 東ヌプカウシヌプリ山、8/30 富良野西岳、9/14 当麻乗越、10/3-4 道東（1泊2日）を実施しました。



⇒ 今後の活動と一緒に考える支援者となり、その意見をツアー企画に反映することができました。

② 受託ツアー

1. 道新文化センター（生涯学習）

9件のプログラムを実施。65人の方々にご参加くださいました。

・道新文化センター旭川校で6月～9月に「高山植物ウォッチング」を実施しました。前期・後期で各3回旭岳に通いその時の自然を学ぶものです。

・3月～4月に「スノーシュー講座」を実施しました。全3回実施し、冬の旭岳の自然を学びながら冬のアクティビティであるスノーシューを体験しました。



⇒ 旭岳に複数回来てくれる地元の方たちと繋がる事が出来ました。旭岳の環境保全活動の支援者になっていくことを期待しています。

2. 東川町立日本語学校留学生「雪遊びプログラム」

2件のプログラムを実施。27人の方々にご参加くださいました。

・東川町海外誘客推進本部からの依頼で、留学生がはじめての雪遊びを経験するプログラムを、キトウシ森林公園で実施しました。

3. 少人数制ツアー

28 件のプログラムを実施。263 人（日本延べ 15 名、外国人延べ 248 名）の方々にご参加くださいました。

- 北海道宝島旅行社や旭川まるうんトラベルと連携し日本人、外国人旅行者の受け入れを行いました。日本語と英語でガイドをしています。

⇒ 11 月と 12 月はシンガポールからの旅行者が多く、この時期に雪遊びができるのは旭岳に限られるため多くの旅行者が雪遊びプログラムに参加しました。

4. 団体ツアー

40 件のツアーを実施。318 名の方にご参加くださいました。

- 主に JTB などからのお客様を、旭岳姿見の池園地中心にガイドツアーを行った。

活動内容④ 人材育成事業

① ボランティアやインターンの受入れ（環境保全事業、地域に根差した交流促進事業と連動）

NPO 法人 ezorock、北星学園大学、旭川教育大学から、旭岳での環境保全事業や子ども自然体験プログラムに、日帰りから最長で4日間の受け入れを行いました。

⇒ ボランティアが活動することで、旭岳で環境保全が進められると同時に若者が育つ仕組みづくりができました。

② アドベンチャートラベルガイド育成

北海道運輸局と、大地みらい信用金庫の事業で、北海道アドベンチャートラベル協議会（HATA）と連携し、英語ガイドの育成研修を実施しました。

⇒ 旭岳では英語を学ぶ学生を対象に、根室ではネイチャーガイドを対象に、わかりやすく英語でガイドできる手法を共有しました。

③ 旭川市内中学校の職業講話

旭川市内の中学校の総合的な学習の時間における、職業講話の授業で「NPO で働く人」として、大雪山自然学校の仕事や NPO での働き方についてなど紹介しました。

④ 「大雪山環境保全プログラム」

パナソニック NPO サポートファンドと地球環境基金の助成を受けて、環境保全活動をテーマにしたボランティア活動によって、若者が成長する枠組みを整えました。

⇒ ボランティアのすそ野を広げる広報、手間のかからない手続き、わかりやすい持ち物や現地へのアクセス、現場でのプログラム内容などを作りこみました。

その他

① 北海道アドベンチャートラベル協議会（HATA）

荒井が北海道アドベンチャートラベル協議会会長に就任し、英語ガイドの育成と北海道におけるアドベンチャートラベルマーケットを呼び込む事業を進めています。

⇒ 大雪山エリアにおけるアドベンチャートラベルの受け入れの枠組みを整えています。

② サステイナブルツーリズム国際認証の導入に向けて

GSTC(Global Sustainable Tourism Council)が認定する持続可能な観光のための国際認証を日本に導入するプロジェクトにNPO 法人日本エコツーリズムセンターとして荒井が参画しています。日本の観光地が世界基準を満たしている状態にしていくことが目標です。

⇒ 運輸局が主導しているアドベンチャートラベルに、サステイナブルツーリズムを重ねあわせ、更には環境省が推進する「エコツーリズム推進全体構想」などに関連づけることで、過去の積み上げを生かした事業展開をしています。

③ Panasonic NPO サポートファンド（組織診断・組織基盤強化）

2018年1月～12月の期間で、団体の組織診断や組織基盤強化のための助成を受けました。

⇒ 組織基盤強化事業として特例認定NPOの取得や寄付受付の仕組みづくりなどを進めることができました。